

NEWS LETTER



△ 3/12(日) 「こどたん+プラス 2023」 3年振りの対面開催



CONTENTS

- ・NPO 講座 3、SDGs カフェ 6
- ・地域の居場所づくり交流会VII
- ・こどたん+プラス 2023
- ・「さぼちゃんが行く！」
ピースカフェ・ちがさき
- ・お知らせ/カレンダー

#サポセンはみんなの想いでできている



「こどたん+プラス 2023」リアル会場にお目見えした、さぼちゃんの顔出しパネル（ほぼ等身大！？）。サポセンでインスタ映える場所がほしいな～というセンター長の無責任な投げかけに、大学生スタッフがアイデア出しと制作を担当。自立式・安全面での試行錯誤ののち、スタッフ・高校生ボランティアの英知を結集して無事完成。「#思い出残そうフォトスポット」、まだまだ体験できますよ～！

施設利用時のお願い

サポセンの新たな利用ルールについて（2023.3.13～）

- ▷予約なしで利用できます
（大勢のメンバーで集まる時や大量の印刷をしたい場合は、予約も可）
- ▷マスク着用は、個人の判断に委ねます
- ▷手指消毒、換気にご協力ください
- ▷飲食は OK（感染防止対策を講じたうえで。館内の共用食器類の使用はもうしばらく休止）
～重症化リスクの高い方など利用者の健康を守るため、スタッフは当分の間、マスク着用で対応します～



《引き続きのお願い》

お一人お一人が感染防止対策を講じたうえでご利用ください

もっと知りたい！サポセンのこと

～市民活動応援プログラム～ 2023年1月～3月 開催報告

開催報告 NPO 講座③「パートナーシップでまちづくり～知っておきたい行政のしくみ」

◇日 時：2023年2月18日(土)14:00～16:00 ◇参加者：16名
◇講 師：熊谷健太さん（企画経営課）、柿澤良昭さん・小西琢郎さん（市民自治推進課）
質疑応答コーディネーター：益永律子さん（認定特定非営利活動法人 NPO サポートちがさき）



市民活動と行政の「違い」を知り、協働を一步前へ

茅ヶ崎市の「総合計画」や「実施計画」の策定・進行管理に関する業務等をしている企画経営課と、自治会やNPO、市民活動団体等の活動の推進・支援を主な業務としている市民自治推進課の職員を講師にお招きして、「行政のしくみや意思決定のプロセス」、「策定中の『茅ヶ崎市実施計画 2025』をもとに、今後、茅ヶ崎市が取り組むテーマ等について」、「協働の手法、進め方のポイント」についてお話を伺いました。

講義後の質疑応答では、子ども支援、障がい者福祉、外国籍市民の支援、農業、デジタル推進等、様々な分野の団体から、活動現場の課題や悩みについて次々と切実

な思いが語られ、質問と同時に「法律を変えないと難しい課題もあり行政も一緒に取り組んでほしい」「職員の方ももっと踏み込んで考えてほしい」等、市の取り組みに対する提案や事業協力への期待の声があがりました。

終了後の感想は「地域の問題や行政について、多様な視点から話を聞くことができた」「少し遠くに感じる市役所の職員さんが親身に相談にのってもらえる雰囲気が出ていた」他、「今回のような市との協議できる場を引き続き設定してほしい」との声が複数ありました。

今後も団体同士の情報交換や行政との対話、意見交換の場をつくることで、まちづくりの主役である市民と行政との協働を後押ししていきたいと思えます。



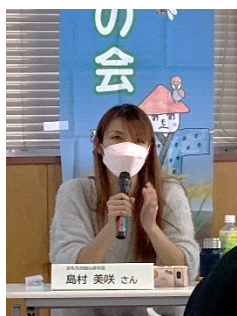
開催報告 第6回「地域の力が集まった『新しい交流の場』創りませんか～休耕田んぼの活用でみんなを笑顔に～」

◇日 時：2023年2月25日(土)14:00～16:00 ◇参加者：20名
◇ゲスト：島村美咲さん（おもちの田んぼの会）、鈴木國臣さん（タゲリ米農家）

まちなかでも自然と共に暮らしたい、農業・農地と共生するまちづくりがしたい、子どもたちに地域のつながりを残したい…そんな思いを持った人たちが集まり、都市農業とまちづくりの可能性について語り合いました。

前半は、農業経験ゼロの子育て世代が、地域の様々な方に支えられながら円蔵地区にある休耕田んぼを「地域の新しい交流の場」に作り変えた「おもちの田んぼの会」の活動について、中心メンバーの島村さんにお話を伺いました。

発足のきっかけと一年を通しての活動、支えてくれた地域の方への感謝と挑戦して味わった充実感など、実体験に即したお話に加え、「地域でつながるためには、こちらから出向いていってのコミュニケーションが大切」と、これから始めたい人に向けて実感のこもった応援メッセージもいただきました。



「30～40代の若いママたちがどうして農業活動を？モチベーションは何ですか？」という問いに対しては、「とても熱意のある方が参加のきっかけを作ってくれました。最初に集まった人は全て県外からの移住組。子どもと一緒に年間通して何か体験できる場所を作りたいかった。

それが、たまたま「田んぼ」だった感じがする。大人が楽しそうにしていると子どもは自然についてきてくれる」と回答。自然体で活動する姿が伝わってきました。

「タゲリ米農家」の鈴木さんからは今まで携わってきた地域活動の紹介他、これから農業を通じた地域活動を目指す方へ「熱意と行動力の必要性」「仲間作りの重要性」「周辺住民への配慮の仕方」「行政との協力の仕方」など専門家の視点で貴重なアドバイスがありました。

後半は、地域活動や市民活動の団体、行政、中学校教諭、農業に関心のある個人など色々な立場の参加者がグループに分かれて交流。延長してほしいとの声が出るほど熱のこもった活発な意見交換がなされました。

終了後の感想では、「農作業は大変だからこそ、繋がり大切さを感じた」「コーディネーターの重要性を感じた」「居場所、地域のつながり、多世代交流に改めて惹かれた」「参加者が今後も繋がる仕組みがあるといい」等の声がありました。



◇日時：2023年3月4日(土) 14:00~17:00 ◇参加者：31名

本年度の地域の居場所づくり交流会は、「本」をテーマに久しぶりの対面開催。今回も定員を超える申込があり、講師・事例報告者・スタッフも含め、40人近い人数で、熱気あふれる交流会となりました。会の終了後も、しばらく、参加者と登壇者、参加者同士の自己紹介、情報交換が続きました。



磯井純充さん

磯井さんの著書「マイクロライブラリー」は、サポセン図書コーナーで閲覧可。

ープログラムー

講演：「本を介した居場所づくり

～人と人をつなぐメディアとしての本の可能性～

講師：磯井 純充さん（まちライブラリー提唱者）

私は大阪の生まれで、大学から東京に来て、卒業後に森ビルという会社に就職しました。長くやっていたのは社会人教育で「アーク都市塾」を担当。20年前に六本木ヒルズが出来た時には、自分の発案で、ビルの中に会員制の図書館をつくりました。当時の自分は、何人講座に参加したのか、対前年比で収益がどれだけ伸びたかなど、数字にばかり関心が向いており、こうした仕事を続ける中で、何か大切なものを見失っているのではないかと、心の中にモヤモヤを抱える日々を送っていました。

そんな矢先に出会ったのが、友廣裕一さん（早稲田大学学生）でした。彼は、ヒッチハイクで全国津々浦々の限界集落を歩く旅を続けている若者でした。自分とは真逆の生き方をしている人間だなーと感心し、さっそく彼に弟子入り。その後、友廣さんのゼミの担当教員、友成先生と出会い、肩書にとわられずに人の本質を見ることの大切さを学びました。この二人との出会いと学びが、まちライブラリー構想の原点になっています。

最初は自分の父親が残してくれたビルにライブラリーを開設。うまくいかず、「本とバルの日」という食事付のイベントを開催したら、徐々に人が集まるようになりました。こうした経験をもとに、まちライブラリーの活動を、カフェ、お寺、公園、歯医者、大学の透析センターなど、全国各地に広げていきました。

まちライブラリーでは、参加者が自分のお勧め図書を持ち寄って語り合う「植本祭」などのイベント企画や、本棚を整理したりするサポーター制度も設けています。

活動を続ける中で気づいたことは、沢山の人を一度に集めるよりも、小さなグループでの対話の場を沢山つくる方が、仲間が見つかり易いということ。今日の交流会のように、少人数で語り合う形が望ましいのです。

まちライブラリーが目指すものは、規模を拡大することではなく、納豆や味噌などに含まれる酵母のように、発酵しながらじわじわと成長していく姿。個人でも地域社会の主役になれるという挑戦なのです。まちの小さな図書館を、みんなの広場にしていけることが大切だと考えています。



事例報告（3団体）

池田 美砂子さん（Cの辺り）

「Cの辺り」は、会員制ワーキングスペース兼一箱本棚オーナー制ライブラリー。オーナーは本棚を借りるだけでなく、お店番を含め、積極的に場の運営に関わってくださっています。場を運営しながら、「誰もが、自分が活かされる場を探している」ということに気づきました。オーナーシップを育むのは、「面白そうだ。やってみよう」という気持ちで、そうした気持ちが、人を消費者（お客様）から当事者（オーナー）へと変えるのだと思うのです。一箱オーナー制度の図書館は、参加のハードルの低い素晴らしい制度。本は、ヒトとヒト、ヒトとコトをつなぐ優秀なつなぎ役なのではないでしょうか。



大西 裕太さん（話せるシェア本屋とまり木）

昨年4月、「話せるシェア本屋とまり木」をオープン。自分が鬱の経験があったことが影響しているのかもしれないですが、気持ちがマイナスにふれている人が、前を向くきっかけづくりの場になったらと思い、この場所をつくりました。「とまり木」の本棚オーナーは、和室で煎茶の会、味噌づくり、3Dプリンターの見学会、読書会などを企画開催しています。今では店のあり方を一緒に考えてくれる大切なパートナーとなっています。

「とまり木」は本屋というよりも、「学校」で言うと保健室や図書室。「まち」で言うとスナックやバー。そんな場所を目指しています。



芝 匠子さん（ぬくぬく文庫）＜横浜市青葉区＞

田園都市線のたまプラーザ駅から徒歩5分の住宅地にある家庭文庫です。活動をはじめて17年。新型コロナウイルスの流行前は毎週1回、現在は月1ペースで活動をしています。日常活動のほか、夏と冬の「お話し会」、クリスマス会等のイベントを開いています。「ぬくぬく文庫」は、本を読むだけでなく、かくれんぼを楽しむ遊び場であり、子どもにとって、秘密基地のような存在。本だけではなく、楽器や絵など、色々な事物に子どもたちが触れる機会を大切にしています。文庫活動の中で蒔いた種が、いつかどこかで芽を出してくれたらうれしいと思いつつ、日々の活動を続けています。

開催
報告

ちがさきを知る・みんなでつながる・新しいことにチャレンジする

こどたん + プラス 2023



◆対面開催 3月12日(日) 10:00~15:30

18 団体参加、25 ブース出展、約 1,300 名 参加

◆オンライン開催 3月6日(月)~3月26日(日)

28 団体参加(市民活動、行政など動画配信で参加)

3年振りのリアル会場！たくさんの笑顔と元気^^

子どもから大人まで、多世代がワイワイ楽しみながらつながる、体験型交流イベント「こどたん+プラス 2023」。今回は、ワークショップやお買い物など、いろいろな体験ができる3年ぶりの「リアル会場」と遊べる学べるコンテンツが盛りだくさんな「オンライン」の2本立てで開催しました。

リアル会場には福祉、環境、動物愛護、まちづくり、防災、子ども、文化、国際、科学技術振興など、様々な分野の体験・物販ブースが屋外と屋内に25。当日は天候にも恵まれ、大勢の子どもたちやその家族が続々と来場！チラシやスマホを手に開始前から受付に並ぶ姿に、主催者・団体一同、わくわくの期待感と久しぶりの緊張感が高まりました。

受付した後、一目散にお目当てのブースへ急ぐ子どもたち。人気のブースには、次から次へと子どもたちが訪れ、嬉しい悲鳴をあげていた参加団体の皆さん。子どもたちと直接触れ合えて元気をもらったよ！と充実感あふれた表情でした。大好きな茅ヶ崎をもっと元気にしようと日々活動するたくさんの素敵な大人たちと出会った子どもや大人たちが、よりよいまちづくりのためにプラスのアクションを起こす小さな一歩となってくれたら嬉しいです。



お日さまの自然エネルギー、ネパールの経済的支援について学び、保護犬の啓発活動、可愛いインテリア作り、福祉作業所で作られた作品の展示販売、色んな形の端材を組み合わせる木工あそび、ボールすくい、パーツを組み立てる風車や木工おもちゃの販売、トランシーバーを使った無線通信体験など、子どもたちが楽しめるブースが勢ぞろい！普段、体験できないことがココでできちゃった！と満足げな子どもたちが印象的でした。

お日さまのかってすごい



水を入れてカワイイ
インテリア小物作り

コーヒー | 杯が誰かを救う



大好きボールすくい

知ろう、ペットの命の大切さ



大人気、木工風車作り

災害時にも使えるね



サステナブルアクション



使えるおもちゃや絵本、新品文房具を寄付。寄付したらクーポン券を Get。クーポン券とぬいぐるみを交換したり、楽しみながら「もったいない精神」を学びました！集まったものは必要としている人や場所へ届けられます。



感染対策を講じて事前予約制とした団体のワークショップは3/1の申込開始日より3日で定員に達する人気ぶり。事前予約制としましたが、当日来場してくれた子どもたちのことも考えて、多めの材料を用意したり、手軽に作れる工作を開催したり、予定外の体験でぬり絵を配ったりと、ブースに来てくれた来場者に対して、思いやりがいっぱいでした。“おもてなし”満載の市民活動団体のブース。サポセン館内は遊びながら学び体験をした子どもたちのキラキラした笑顔や元気な声が響く心地よい空間に包まれました。



ぬり絵でウクライナの平和への願いを共に感じたね



歌で覚えた振り付けが手話だったと知って得意顔



初めてのフラダンス！
3曲も教えてもらえたよ



点字は見ることはあっても、
打つという貴重な経験



はじめて使うかなづち
ドキドキが伝わってきます



3Dプリンター!!
子どもも大人も興味津々!



珍しい打楽器。リズムに
合わせて体が動いちゃう♪



パソコンでオリジナルマイ
シール作り



「KEEP LEFT」自転車は
左側走行だね



竹とんぼのよく飛ぶ方法や
仕組みを伝授



ボールペンでお絵かきリレー。
子どもの発想力は無限大



レモン電池科学実験。保護者
が真剣に話を聞くほど



ボランティア、 協力者の力に感謝

開催前から高校生ボランティアたち（茅ヶ崎高校ボランティア同好会、茅ヶ崎西浜高校 JRC 部）が、景品の包装・館内飾りつけ・ワードラリーのポスター掲示などお手伝いをしてくれました。

当日は、高校生から社会人まで15名が、受付・窓口(ワードラリーゴール)・サスティナブルアクションブース・サポセン企画(マイシール、防災かるた)・オンラインクイズ・工作エリア・臨時駐輪場・記録写真などで大活躍でした!

ボランティアの声→可愛い子どもたちの笑顔を見ることができて充実した時間を過ごすことが出来ました・普段子どもたちと関わる機会が少ないので、小さな子どもたちとの接し方を学ぶいい機会になりました



ラジオドラマレコーディング
なんて初体験!



防災かるた! 全力で取るよ
「はい!」と大きな声で



おいしい唐揚げとたい焼きで来場者の小腹を満たしてくれたキッチンカーROITON・TAIYAKISAN、快く臨時駐輪場・駐車場の場所を提供くださった AGC セイケミカル株式会社、来場者の安全をしっかりと見守ってくださった株式会社 K・B・S・システムの警備のみなさん、手話通訳者・要約筆記者のみなさんのご協力にも感謝です。

参加団体情報など、サポセンHP
からアーカイブが見られます♪



さぼちゃんワードラリー



会場内の7か所にかくされた「さぼちゃん」を見つけ、ひとつの言葉をつくろう～！台紙を持った子どもたちが隅から隅まで探し回って、見つける度に「あった！」「あそこ！」と嬉しそうな声が響きました。「見つからないな…」の音が聞こえたらヒントをスタッフがこっそり伝えてみたり。ゴールでは“やったね！”スタンプを押して景品と交換する子どもたちの長蛇の列ができました。(答えは「みんなでつながる」)



ゆるっとつながろう コーナー

《サポセン開設20周年企画展示プロジェクト》

あなたが誰かと「つながる」のに、必要なコト・モノ・要素は何ですか？



▶アンケート期間：2023年1月19日～3月12日 ▶回答数：277回答（回答方法…館内273回答、Web4回答）

「ゆるっとつながろうコーナー」では、小学生と保護者の家族連れの方々が立ち寄ってアンケートに答えてくれました。子育て世代である保護者からは“コミュニケーション”や“言葉”が大切と感じていること、一方、子どもたちからは第一印象に欠かせない“あいさつ”や“笑顔”、日常の“あそび”が友達とつながる要素であることが回答からわかり、世代ごとに違いがみられ大変興味深かったです。どの世代にも共通したのは、相手への「思いやり」、相手をおも「心」、それに加え「笑顔」。アンケートへのご協力ありがとうございました。

(世代別の集計は、後日サポセン HP の掲載予定)



こどたん+2023
同時開催

市民活動パネル展

市民活動団体の日頃の活動やイベント告知、会員募集などのメッセージをお届けしました。10分野から30団体が参加！市民のチカラで伝える、変える、つながる未来に…！

▽掲示パネル一部紹介▽



《参加団体の声》

- ★工夫したこと：短時間でつくり、達成感があるように作り方を動画にした・子ども自身の力をつけること(分解図を添えた)
・混雑混雑を避けるため整理券を用意した・組立工程をシンプルにした・帰宅後、自宅でも続きができるようにした
- ★楽しかったこと、よかったこと：みんなが楽しんでくれた・活動に興味をもってくれた・活動PRできた・完成したときの笑顔はご褒美をいただいたようだった・人と笑顔で会えた・たくさん会話できた
- ★大変だったこと・困ったこと：開始直後は参加者が集中し受付が大変だった・場所が狭く参加したいのに断ってしまった
・嬉しい困りごとだが工作教室が盛況で昼食時間が遅くなった・3Dプリンターの出力がうまくいかない時があった
- ★次に向けての団体の改善点など：キットを多く用意しておく・小学生対象にして大人の付添を避けたい・電圧などの事前確認・運営にプラスになるようなワークショップができるとよい・当日の対応スタッフを増やす
- ★イベントがもっとよくなるアイデア：子ども(高学年)がお店を出す側の企画・広い会場、目的にあった場所の確保
・市民活動団体がたくさん参加できるように・スタンプラリーの実施・大型モニターの有効活用・のぼりの配置
- ★全体について感想：明るくて賑やかだった・オンラインよりもリアルがいい・サポセン周知度がもっと上がることに期待
・参加団体同士の交流ができなかった・安心安全な環境のもとで参加できた・市民活動団体の映像は常時、サポセン館内で放映してはどうか・休憩椅子がもう少しあるとよい
- ★動画配信 参加団体の声：たくさんの方に見ていただき嬉しい・普及啓発のために作成した動画を見てもらう機会が増えてよかった・団体や知り合いに動画を見てもらい改めて活動を再認識してもらえた・市内の活動動画を一同に見られて良かった

「こどたん+プラス2023」を一緒に創り上げたすべてのみなさまに感謝！ありがとうございました。



さぼちゃんが行く！

ピースカフェ・ちがさき

活動の合言葉は未来を「あきらめない」。戦争や貧困、核や環境問題等をテーマに写真展、講演会、上映会、ライブなどを企画、開催して幅広く市民の方たちに参加を呼びかけ、平和や人権について共に考えています。また厳しい闘いや暮らしを強いられている人々への支援カンパを続けています。

2003年4月設立。正会員8名、賛助会員5名。

《浦田さん、生越さんにお話をうかがいました》

「平和の白いリボン行動・藤沢」との出会い

9.11 同時多発テロ後、アメリカ軍によるアフガニスタン侵攻の恐れが高まっていました。団体設立メンバーの生越さんは、絶対に暴力の連鎖を断ち切りたいとの思いを抱いていたときに、藤沢駅で「白いリボン」を身につけて反戦を訴える活動をしている団体の存在を知りました。戦争で犠牲になるのはいつも子どもたち。「子どもたちの未来を奪う戦争を止めさせたい、一人でも多くの方に現代戦の実相を伝え戦争不参加の思いを共有したい」と、公民館での学習グループを中心に仲間を集め、2002年12月、市民ギャラリーにて、森住卓写真展「イラク～湾岸戦争の子どもたち」を企画。アメリカ軍が使用した劣化ウラン弾による放射能汚染で、多くの子どもたちが健康被害にあった事実は当時ほとんど報道されていませんでした。



入場料代わりに1口500円のカンパを募ったところ、なんと20万円ものお金が集まり、茅ヶ崎市民の潜在的な平和を願う力を感じたそうです。それが原動力となり、集まったカンパをもとに2003年2月フォトジャーナリストの豊田直巳さんをお招きして講演会を開催。その後も市民を巻き込み継続的に平和学習をしていくために団体を設立、2004年5月に再び豊田さんの講演会「イラクー戦火の下の子どもたち」を開催しました。

様々な団体と連携しながら



思い出深いのは、学生たちと一緒に活動できた10年間。夢のような時間だったそうです。文教大学林ゼミ、文教大学グローバルサークルteamOneの学生たちが、講演会や写真展などの企画・運営に参加。プロ級のチラシを作製したり若者の視点で裏方に力を発揮してくれました。

また「茅ヶ崎映画祭」には第2回から第8回まで参加。コロナ禍でオンラインになったため、独自の上映会を開催するようになったそうですが、会場設営や受付、機器類の操作などは他団体と協力しあっています。

継続は力なり

毎回欠かさず新聞各社へ情報提供をし、人脈を生かした告知を地道に行い、大勢の方に参加してもらっています。20年活動して嬉しなのは、「良い企画だった！」と言ってもらえること。この言葉が一番の活力です。いろいろな出会いがあり、自分たちが楽しいからと同時に、楽しみにしてくれている人がいるから、経験があるからこそ継続できています。

「平和と人権」を軸に様々なテーマを取り上げてきました。中でも、水俣病の患者さんたちに終生寄り添った石牟礼道子さんの詩の朗読会には特別な思いがあり、ピースカフェのライフワークとなっています。

過去には、ジャーナリストの堤未果さんや小説家・ジャーナリストの辺見庸さんに講演していただいたこともあり、写真家・岩合光昭さんからは貴重な写真をお借りすることができました。メンバーそれぞれが常にアンテナを張り、良いと思った企画のために、予算がなくても持ち前の行動力と熱意で粘り強く直接交渉。映画の上映会などでは団体の思いを知った監督が思いがけずゲストで来てくれることもあるそうです。

メンバーが少なくなってきたものの、これからも無理なくやっていけると気持ちはひとつ。

「平和」への願い、そして「日本は絶対に戦争を起こしてはいけない」ということを繰り返し力強く話してくださったのが印象に残りました。映画を観て未来のために何ができるか、一緒に考えてみませんか。



・ ・ ・ <今後の上映作品紹介> ・ ・ ・

第3回 シネマ@ピースカフェ

—映画の力を信じる・平和な未来を願う—

- ・4/8(土) 『荒野に希望の灯をともし』
- ・4/15(土) 『オレの記念日』
- ・4/22(土) 『雪道～ずっとふたりで生きてきた…』

☆イベント詳細
はこちら→



お知らせ

「市民活動団体データベース」に登録しませんか

登録情報は「市民活動団体ガイドブック」としてサポセン HP で公開されます。市民が活動をはじめるときや、市民活動団体間のネットワークづくりなどで活用されています。(登録の前に審査があります)

◎メリットは、

- ・団体の認知度、信頼度アップ
- ・活動情報の発信機会が増える
- ・サポセンからのお役立ち情報(イベント、助成金等)が受け取れる



登録についてのお問合せはお気軽に窓口まで
=登録申請書類はサポセン HP からダウンロード可能=

ガイドブックページはコチラ▶



「貸出口ロッカー」利用の募集!

館内貸出口ロッカーの利用を募集します。団体の資料や物品保管に利用いただけます。

- ・貸出期間：2023年4月1日～2024年3月31日
- ・使用期間：1ヶ月～最大1年間
- ・料金：
小型 200円/月(現在の空き12個)
大型 410円/月(現在の空き1個)
～詳しくは窓口まで～



パソボラ湘南主催 IT 支援

パソコン・スマホのお悩み事をサポセンに来て相談できます。(無料)

開催日：第2・第4月曜日

開催予定日 4/10、4/24、5/8、5/22、6/12、6/26、
7/10、7/24、8/14、8/28、9/11、9/25

- ①13:00～14:00
 - ②14:00～15:00
 - ③15:00～16:00
- 各回定員2名



◀詳細はコチラ

※申込受付：毎月1日から

※お申込みは直接 NPO 法人パソボラ湘南へ

「春の市民まつり」出店します!

▷日時：4月30日(日) 10:00～16:00

▷場所：茅ヶ崎市役所前広場

市民ふれあいプラザ



サポセンの活動紹介などを予定しています。

ぜひお越しください♪

広報ちがさき「市民の活動だより」

毎月1日発行の「広報ちがさき/市民の活動だより」コーナーで市民活動団体を紹介しています。

▷4/1号：すこやかコーラス

▷5/1号：茅ヶ崎走友会

紙面の都合上、掲載が延期される場合があります

サポセンカレンダー

<○休館日、□館内利用制限日>

4月							5月							6月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
					1	2	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31					26	27	28	29	30		

※最新情報はホームページにてご確認ください。主催イベント開催のため、フリースペースのご利用を制限させていただきます場合があります。ご理解ご協力の程お願いいたします。

ちがさき市民活動サポートセンター

開館時間 9:30～21:30 (休館日：毎月第3水曜日、年末年始(12/28～1/3))

アクセス JR 茅ヶ崎駅北口より徒歩 10 分程度・駐車場 14 台・障がい者用駐車場 1 台・駐輪場あり

連絡先 〒253-0041 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎 3-2-7 TEL/FAX：0467-88-7546

E-mail：s-center@pluto.plala.or.jp URL：https://sapocen.net/

編集・発行 認定特定非営利活動法人 NPO サポートちがさき

(指定管理期間：2021年4月1日～2026年3月31日)

サポセンキャラクター
“さぼちゃん”



サポセン HP